

ほほえみ 第35号



2013年も残すところ3か月となりました。先日まで、猛暑日と言っていたのが、信じられないくらい、涼しい秋の気候となっていますね。台風が来たり、災害の多い今年の岩手でもあったので、被害に逢われた方もいらっしゃるかもしれません。ほほえみ読者の皆様は、いかがお過ごしでしょうか。先日、八百屋さんの店先で、様々なキノコが並んでいました。サトイモも沢山並べられていましたし、秋の味覚も最盛期ですね。皆様も、秋の味覚を堪能していただければと存じます。

嘔気・嘔吐について

抗がん剤治療というと、嘔気、脱毛、だるさなどが、最も最初に頭に浮かぶ副作用ではないでしょうか。実際に極端な嘔気・嘔吐は20年前と比べると、圧倒的に少なくなっていますが、それでも苦痛の大きな副作用であることには間違いありません。

嘔気がどうして起こるかという、嘔気を引き起こす中枢、『嘔吐中枢』というものがあるのです。嘔吐中枢は、直接、薬剤の刺激によって、腸からの神経刺激の二つで嘔吐を引き起こすのです。嘔吐中枢というものが、備わっているのは、有害なものを摂取した際に、吐き出すことによって人体を守るためにあるのでしょうか。しかし、必要な抗がん剤を投与するような場合には、困ったこととなります。

この、嘔吐中枢の刺激をブロックする薬剤が、複数開発されたのが、この20年間で化学療法の苦痛が軽減された大きな要因でしょう。大きく分けて、5HT₃受容体というものと、NK-1受容体を抑える薬剤が使われています。

5HT₃受容体を抑える薬剤が、グラニセトロンやパロノセトロンといった薬剤です。グラニセトロンがなかった時代の化学療法は非常に大変でした。特に、高度催吐性といわれる高用量シスプラチンの投与などは、本当に治療を受ける方にとって苦痛でした。食事が全くとれず、嘔気が続く状態で、入院、補液は必須でした。今は、グラニセトロンやパロノセトロンが使用され、さらにはアプレピタントという、NK-1受容体の阻害剤も使われる場合があります。制吐剤の使い方も、ガイドライン化されていて、高度催吐性から、中等度、軽度、最小度と細かく分類されています。このことからわかるように、化学療法でも、全てが高度の嘔気をもたらす訳ではなく、軽度や最小度の催吐性のもも多いのです。こういった場合には、嘔気・嘔吐という副作用は元々、非常に軽いということです。

また、嘔気の起こる時期でも違いがあり、概ね、当日や翌日の早期に起こる嘔吐と、数日たってから起こる嘔吐があります。後者を遅発性嘔吐と言っています。以前は、遅発性嘔吐のコントロールが難しいとされてきたのですが、アプレピタントやパロノセトロンといった薬剤が使われるようになって、まだまだ完全にはコントロールするのが難しいのですが、状況は改善してきています。

投与する前が出る嘔気というのもある、これは『予期嘔吐』と呼ばれています。実際に薬剤が投与されていない時点で起きるのですから、その原因は心因的なものです。この場合は、嘔吐中枢をブロックするよりは、精神安定剤が有効になります。

嘔気・嘔吐に関しては、制吐剤の開発が進んだこともあって、以前と比べれば格段に改善していますが、以前の状態を知る方はほとんどいないので、矢張り、苦痛な副作用であることには間違いありません。ガイドラインはありますが、試行錯誤の部分もありますので、スタッフにご相談いただければと思います。



嗜好と脳科学

脳科学とかニューロサイエンスという言葉は、もはや、すっかり日常語になってしまって、テレビのバラエティー番組などでも、脳科学者がお笑いタレントと混じって面白おかしく、脳科学の知見を披露したりということに何ら違和感を感じなくなっています。

以前に、ご紹介した、『ミラーニューロンの発見』のなかで取り上げられていた、C社とP社のコーラの比較実験に関してお話しします。行われたのは、被験者にfMRIという、脳の活動を測定できる機械の中で、コーラを飲んでもらい、感想と、実際の脳の神経活動を比較するという実験です。



内側眼窩前頭皮質という部分の活動が上がると、その品物を好感していることがわかるらしいのですが、ブランド名を伏せて実験すると、P社のコーラの方が美味しいと感じ、ブランド名を明かして実験するとC社の方が美味しく感じるらしいです。人の嗜好の決定にはいろいろなファクターが関与しているということですね。因みに、ブランド力で好みが左右されるのは、背外側前頭前皮質という部分が意思決定に働くということです。意思決定に複数の神経領域が関与するというのは、奥深いですし、人間の意思決定の場面での、神経活動が記録できるということは、面白いですね。

今年の家庭菜園（秋）

春から始めた、今年の家庭菜園も秋の、ジャガイモ、サツマイモの収穫がピークで終盤戦に移行してきました。今年は、ジャガイモは、メークインとインカのめざめ、サツマイモは、安納イモと鳴門金時を育てたのですが、雨が多く、気候が合わなかったのか、ジャガイモは非常に不調でした。サツマイモもあまり調子が良くないと聞いていたのですが、先日、一部を掘り上げてみたところ、意外と安納イモは良くできていました。植えた当初は、枯れそうで、それでも、サツマイモは萎れるくらいでもあんまり水を遣らないと書いてあったので、本を信じて対応していました。でもあまりに萎れていたの、水を遣りに行っていた位でしたが、夏以降は、毎週末が雨で、放置状態でした。こんな雨が多くて、砂をすきこんで育てるような作物には合わないなあと思っていました。



安納イモは、見たことがありませんでした。結構育っていて、最初、鳴門金時を掘っているのだと思ったのですが、食べてみると、切った断面が薄いオレンジ色で、特有のとろっとした食感があり、わかりました。鳴門金時は、萎れることもなく、最初から絶好調でしたが、イモが育っているかどうかはわかりませんね。いずれにせよ、ナスやトマトと違って、掘って見ないとわからないのは、面白い気がします。

MEMO

10月のがん化学療法科の予定

- | | |
|---------|-------------------------|
| 10月5,6日 | がん哲学外来コーディネーター養成講座(佐久市) |
| 10月11日 | 柴田教授外来 |
| 10月14日 | 体育の日 |
| 10月18日 | 新渡戸稲造祈念 メディカル・カフェ |
| 10月25日 | 柴田教授外来 |

